

第6分科会 第3回運営委員会記録（概要）

平成17年10月15日（土）

午後3時15分～4時40分

大久保地域センター多目的ホール

1 参加委員（敬称略）

- ・区民委員：（2班）稲葉佳子、河村寛二（3班）森田優子（4班）植木康次郎、中山一郎（5班）森田忠幸（6班）：上田尚子、高野 健（7班）尾上好美、鈴木幸展
※1班については、事務局（荒井）から報告
 - ・学識委員（三田、伊藤、土屋）
- 計13名

2 議事概要（決定事項）

座長のあいさつ、各班の進行状況、資料・様式等について意見の報告後、議事に入る。

（1）次回テーマについて（第9回：11月5日開催）

- ・テーマは、「地域安全」について各班の検討を行う。
- ・「多文化共生」と同様に、これまでの成果物を検討資料として「地域安全」についても事務局で作成し、検討様式についても改善を図る。

（2）分科会運営の課題について

- ・第1回運営委員会の配付資料「会議運営にあたっての課題整理（事務局整理分）」について、特に早急に検討すべき重点課題を次回の運営委員会までに各委員が検討して持ち寄り、次回に集中して検討する。
- 《重要課題》会議開催日程、検討の順番、班分けの方法、班の意見のとりまとめ、班の発表の方法、分科会のスケジュール検討など

（3）分科会全体会と班別自主活動の位置づけについて

- ・次回の分科会の様子を見て決める。（多文化共生の各班のレポートの状況を踏まえ、とりまとめ方法なども検討する。）

3 発言内容（抜粋）

【各班の報告など】

- ・確認しておきたいのは、今日の運営委員会の報告により、今までの直接民主主義に代わり、間接民主主義になったこと。また、今後の運営に関して責任を持つシステムができたことを分科会全体に確認できたということ。
- ・今日の運営の仕方としては良かったと思う。
- ・様式1の項目について、資料はこういう形式用にしたものでなかったもので、良い悪い判断できないものや、同じようなもの、意味がわからない項目があった。
- ・様式1の項目はある程度パスをしてもいいのではないかと？パスをした場合はコメントを残しておけばよい。

- ・班全体の意見と正反対の意見があった場合、その意見をどのようにまとめるか、また反映させればいいのか課題である。
- ・「多文化共生」という言葉の定義から決めなければいけない。
- ・フォーマットの良し悪しの前に、それぞれの認識の違いが大きいため、お互いの認識の違いを理解したうえでスタートしなければならない。
- ・「共感」はするけれど完全一致ではなく、コメントが多くなるので様式の工夫が必要。
- ・班全体で賛成か反対かとするのではなく、班の中で何人が賛成で何人が反対とかいてもよいのではないか。
- ・共生とはいっても経済的侵略や日本文化はどうなるという意見と、プラス志向にいかにもっていくかが重要と言う意見があった。
- ・好んでの共生、好まざる共生、区全体の実態と大久保地域の実態など地域によって抱えている問題や認識に大きな差がある。それを理解できるか、出来ないか。
- ・現状は、ちょっと見に行ったというぐらいでは分からない。
- ・テーマに関する全体像のほかに、地域性を出しなさいと言う提言もよいのでは。

【次回テーマ】

- ・これまでの成果について「評価」し、「まとめ」をしていくという流れを継続すべき。
- ・「地域安全」についても資料や様式の改善を図りながら、進めていけばよい。
- ・中間のまとめなどを見据えると、スケジュールを運営委員会で検討して、テーマを一通りこなしていかなければいけない。
- ・少数意見をどう取り扱っていくのかも考えると、各班のまとめを運営委員会でしていかないと進まないのではないか。

【分科会の課題など】

- ・「会議運営にあたっての課題整理（事務局整理分）」について説明。会議開催方法、班分けの方法など重要度の高い課題を早急に検討していただきたい。
- ・班ごとに参加者が一定しないなど課題がある。
- ・班のメンバー構成についても念頭に置く必要がある。
- ・班の自主活動などについては、次回の分科会の様子を見て決める。
- ・参加していない委員の取扱いをどうするかという問題もある。
- ・今後のためにも、区民会議用の部屋の確保について区は考慮すべき。
- ・課題の整理は、一気に片付けていかないといけない。
- ・分科会会議での検討資料やフォーマット、スケジュールなど運営委員会で検討、合意した上で、分科会に臨んでいく必要がある。そのためには次回会議の前に検討する。

4 次回の運営委員会

- ・10月29日（土）午後1時から5時（予定） 区民会議「交流の場」とする。